

NPO法人 日本食品リサイクルネットワーク 関西支部 [食品リサイクル]

事業場や家庭から出る生ごみ（食品残さ）を処理した生成物（有機肥料素材）の農業利用でリサイクルすることは循環型社会を目指す一つの姿です。生ごみ排出者と生産農家をむすぶパイプ役となって、生ごみ生成物の有効活用とそれで栽培された環境こだわり農産物の有効利用を促進・啓蒙する活動をしています。

関西支部 吉田栄治

【施設DATA】

所在地：滋賀県近八幡市堀上町 2-6

事業概要：食品リサイクルネットワークのコーディネート、環境教育、食育啓蒙等

電話番号：0748-36-8457

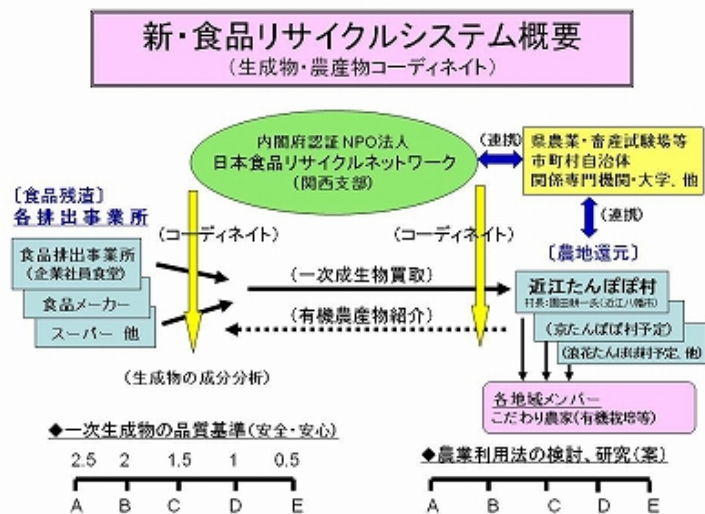
■ 食品リサイクル機器の業界団体の一つの役割として発足

当NPO法人は「食品リサイクル機器連絡協議会・システム委員会」の会員の総意で検討・調整され、2004年に内閣府認証を受けて発足しました。この協議会は、食品リサイクル機器等（業務用生ごみ処理機等）の製造又は販売を行なう事業者や関係者が会員となって、食品廃棄物の有機性食品循環資源のリサイクルを推進するため、関係省庁の指導を受けながら食品リサイクル機器の普及を図り、持続可能な循環型社会の構築と環境保全に寄与することを目的としています。

当NPO法人は自身が生ごみ処理を行なうのではなく、生ごみ排出事業所が導入された生ごみ処理機でできた生成物を農業利用先（生成物を土壌改良剤や有機肥料素材として有効活用する生産農家）へリンクさせ、農家で二次処理（異物除去・混合・調整）等をし、それで栽培された環境こだわり農産物を、排出事業所（企業の社員食堂等）へ紹介するコーディネート役をしています。

農水省の指導のもとに業務用生ごみ処理機器の性能基準作りや、生ごみ生成物に関する活用体験、専門家等との共同実験データをベースに、現在、那須、湘南、近江の3箇所（09/9月より兵庫の4ヶ所）の生産農地（たんぼぼ村）とそれぞれ周辺の排出事業所との食品リサイクルネットワークの拡大を進めています。

同法人の関西支部が近江八幡市にあり、滋賀県内企業と農業利用先の“近江たんぼぼ村”の食品リサイクルシステムを構築しています。



■ 食品リサイクルシステムの構成

概要を写真に示します。現在、排出事業所は12ヶ所、農家3軒で、農地還元量は年間約70トンとなっています。

●排出事業所

どのような方式（乾燥式、バイオ式など）の生ごみ処理機であっても、出来た一次生成物の含水率が20%以下であれば対応できます。一般的に農家での肥料の使用量や使用時期には波があり、生成物は一時保管しておきますが、20%以上だとカビや虫が発生しやすくなるからです。また生ごみ排出先では異物除去など生ごみ分別（箸やプラスチックなどが混在しない）の徹底が重要です。最近の処理機の仕上がりはさらさらした状態（写真）で乾燥しており、臭いも殆ど苦にならずハンドリングも良い状態です。気になる塩分は通常（特例な漬物等の一部は除く）の食品残さでは殆ど問題ありません。



排出事業所の一次生成物は近江たんぼぼ村が有価物として引き取りは、排出事業所へ農産物を配送した後、空になった車両で運んで帰り、真の循環型を目指しています。

●近江たんぼぼ村

排出事業所から出る1次生成物は、同生産農家で使用するの農業資材となります。一次生成物の成分内容、使用法は“あぶらかす”と同様な使い方でも有効利用しています。ここでは、①一時保管⇒②異物除去⇒③混



合・調整⇒④量の計測⇒⑤容器詰め⇒⑥農地還元というプロセスで二次処理をします。一次生成物は事業所や時期によっていろいろな成分のロットが集まります。それらを上手く混合してバランスの取れた成分の生成物（土壌改良剤や有機肥料素材）となるようにして使用します。写真は近江たんぼぼ村の圃場における食品生成物の散布風景です。

●有機栽培農産物

環境こだわり農産物としてお米（えんこう米：滋賀県こだわり農産物承認・園田耕一氏）や野菜の栽培に利用。糖分が高いスイカやビタミンCの多い野菜類ができるとうれい声を聞きます。一般的に有機栽培農産物はミネラルが豊富となります。排出事業所ではこれらのお米や野菜を導入して、企業の社員食堂やレストランでは健康食コーナーを設けたりしています。

■ 生ごみのゼロエミッションに役立たせたい。

生ごみは一般廃棄物として焼却処理され、その焼却残さが埋立処分されると再資源化率にカウントされません。埋立処分ゼロのゼロエミッション達成の一つのネックは生ごみの処理

です。近江たんぼぼ村での現在の農地還元量は約 70 トンですが、この生成物を試用して作物栽培した農家の評判も良く、それらの要望を満たすには現在の 7 倍ほどの堆肥が必要となります。このネットワークを広げて事業所から排出される生ごみの再資源化に役立たせるとともに、一般家庭の生ごみリサイクルの輪も広げていく活動を進めています。

